

## 2020年度 統計データ分析コンペティション

### 論文審査会 総評

#### 高校生の部

コンペティションも3年目を迎えた。データを基に論文を執筆することは、多くの高校生にとって初めての経験であろう。当初、高校生にはこの種の論文執筆を要求するのは無理ではないかとの意見もあった。しかし、提出論文の大半は、高校生らしい統計活用を積み上げつつ、全国や地域の問題に真摯に取り組んで読みごたえがある。例年同様、審査委員会では入賞した作品についても様々な問題点があることが指摘されたが、それらは雑誌「統計」掲載時までには十分解消されるものと考えられる。入賞しなかった論文についても、論文審査会はその活動を高く評価するものである。論文執筆に当たった生徒の方々、あるいはその指導に当たられた先生方に深甚の敬意を表す。

#### 大学生・一般の部

今回も、政策的提案の導出に優れた論文と、データ分析として先端的な方法にチャレンジした論文との2極化が認められた。統計的指標自体の新たな提案といった学術性の強い論文も出現し、審査委員会としてもどのような観点で論文を評価すべきかについては議論が続いた。多くの論文でオリジナリティの萌芽が認められることは心強いが、分析テーマについて、どのような研究がこれまで行われてきたかを可能な限り調べて、自身の分析のオリジナリティをどのようにアピールすべきかについては、今後も可能な限りの努力を続けてほしい。入賞論文には、審査委員会チェックの中で軽微なミスが発見されたものもあるが、上で述べたオリジナリティが顕著だったものが入賞を果たしたと考えることもできる。